

ダニエルの書 - 第三百三十六

共和主義とプロテスタントの預言的転換：死から復活へ

Jeff Pippenger

2024-03-14

2020年に始まった移行が、地の獣の共和党の角と真のプロテスタントの角の双方に起きている。真のプロテスタントの角は2020年7月18日に討たれ、共和党の角は2020年11月3日に討たれた。黙示録第11章によれば、象徴的な三日半の後、彼らは再び自らの足で立ち上がる。彼らが立つとき、真のプロテスタントの角はラオデキアの者からフィラデルフィアの者へと移行する。彼らは教会から取り出され、運動へと導き入れられる。彼らは第七の教会の経験から引き出され、第六の教会の経験へと入れられる。彼らは第八となったが、それは七つに属するものである。

アドベンチズムの初期の運動はフィラデルフィア運動であり、そのフィラデルフィア運動は終わりに回復される。ヨハネの黙示録14章の三天使の働きは運動として始まり、運動として終わる。七つの教会の第六であるフィラデルフィアに代表されるフィラデルフィア運動は1856年に死に絶えたが、2023年7月末から、今や「第八（すなわち七つのうちの一つ）」として復活しつつある。

同じ歴史の中で、共和党の角は死と復活の並行した過程を経験しており、1989年の終わりの時にいたレーガンから数えて六人目の大統領が、七人のうちに属する第八の大統領となる。共和党の角の移行の過程は、背教的プロテスタントの角と合一することによって表されるが、これは霊的姦淫であり、獣の像である。共和党の角は第八、すなわち七つのうちのひとつとなる。というのも、それはカトリックの獣の像を表しており、それはヨハネの黙示録第十七章およびダニエル書第二章にある、七つの頭のうちの第八の頭だからである。

共和主義の角の政治的転換は、1776年から1798年までの準備期間において象徴されている。その預言的な期間は、ネブカドネツアルの獣の像に秘められた奥義の封印が解かれることを認識するための不可欠な鍵である。その準備期間は、キリストと反キリストの双方にとっての30年にわたる準備期間によって象徴されている。

2001年9月11日から、やがて来る日曜法に至るまでの封印の時期は、あらゆる幻の成就が遂げられる預言的な期間である。それは、黙示録第十一章の「大地震」の時に、教皇制が「七つのうちに属する八番目の王国」として地上の玉座に復帰することで終わる期間を表している。ゆえに、それは538年に教皇制が初めて玉座に就いた以前の期間によって型示されてきた。538年、教皇制はオルレアン公会議で日曜法を可決し、それによって三十年にわたる準備の終わりが示され、やがて来る日曜法の型となった。イエスは決して変わらないので、教皇制が初めて玉座に就いた時と同様に、致命的な傷が癒やされる日曜法以前の期間が存在しなければならない。

その時期は、508年、533年、538年という年の節目に関連する歴史によって示されている。508年には、準備期間、すなわち教皇権の確立が始まった。異教ローマの第四の王国、す

なわち竜の勢力はすでに鎮圧され、533年にはユスティニアヌスが、教皇権は「諸教会の頭であり、また異端者の矯正者である」と布告した。538年に教皇権が支配権を掌握するために残っていたのは、ローマ市からゴート族を排除することだけであり、それは538年に実際に行われた。その30年にわたる歴史の歩みは、キリストの誕生と並行しており、その後ヨハネの宣教が続き、やがてイエスが洗礼においてメシアとしての権能を受けることへと至った。

キリストの歴史における準備の期間は封印の時と並行しており、プロテスタントの角の内的系列を扱っている。一方、反キリストのための準備の期間は、共和主義の角の外的系列を扱う。これら二つの期間は、2001年9月11日、2023年10月7日、そして間もなく到来する日曜法に関して二つの証言を与える。一方の期間は外的な証言を、もう一方は十四万四千人の封印の時に関する内的な証言を強調している。

契約の使者のために道を備えた荒野で叫ぶ者としてのヨハネの働きは、死の契約の使者である不法の人のために道を備えたユスティニアヌスの勅令と並行していた。2023年10月7日は、538年のときのように、日曜法が施行されるときに何が起こるかの警告であった。2023年10月7日は、教皇権が初めて地上の王座に据えられるための準備期間における533年に対応している。それは、まもなく訪れる日曜法のもとで、538年のときのように、教皇が再び諸教会の長であり、かつ異端者の矯正者となることを告げる警告である。これはまた、イスラムによる第三の災いの戦争がエスカレートしていくことへの警告でもある。

それは、イスラムを指し示す警告（東からの知らせ）と、教皇の復権に関する警告（北からの知らせ）である。その警告は、終わりの日に契約の使者のために道備えをする使者の働きと一致しており、その契約の使者はその後、十四万四千人と契約を結ぶことになっている。

準備の三つの期間（キリストと反キリストの三十年、そして封印の時）は、1776年から1798年までの期間によっても象徴されている。地の獣の終わりには、聖書預言における第六の王国としての終結に先立つ特定の期間がある。ゆえに、聖書預言における第六の王国としての地の獣の始まりにも、その王国の開始に先立つ預言的な期間が存在しなければならない。アルファとオメガは、常に物事の終わりをその始まりとともに示す。

1776年、1789年、1798年は、2001年9月11日、2023年10月7日、そして間もなく来る日曜法を表している。1776年から1798年に至るまでに、第六の王国の樹立のための預言的な備えが成就したが、これはちょうど508年、533年、538年が第五の王国の樹立のための準備を表していたのと同様である。第六の王国は第五の王国の像となるはずなので、これらは同じ預言的特徴を備えていなければならない。

キリストが洗礼に至るまでの三十年間の準備は、その同じ期間を表している。というのも、キリストが洗礼から始まる一週の間、契約を確認するために来られたとき、主は恵みの御国を打ち立てておられたからである。その七年間に恵みの御国を打ち立てる中で、主はその御国を確認するためにご自分の血を流され、そうすることによって、やがて栄光の御国をお立てになる際の手本を残された。その栄光の御国とは、ダニエル書二章に、人手によらずに山から切り出された石として表されている御国である。その御国は後の雨の期間に打ち立てられるとホワイト姉妹は教えており、後の雨は2001年9月11日に始まった

後の雨は清い者たちの上に降ろうとしている——そのときには皆、以前のようにそれを受けるだろう。

四人の天使が手を離すとき、キリストはご自分の御国を打ち立てられる。できる限りのことをしている者以外は、誰も後の雨を受けない。キリストは私たちを助けてくださる。すべての人は、神の恵みにより、イエスの血によって勝利者となり得る。天のすべてがこの働きに関心を寄せている。天使たちも関心を寄せている。Spalding and Magan, 3.

2001年9月11日、怒った馬（イスラム）として表される四つの風が解き放たれ、その後、十四万四千人が封印されている間は抑えられている。1776年、1789年、1798年は、十四万四千人の封印の期間を表しており、また、これら三つの日付は、聖書の預言における第六の王国が樹立されることにつながった法律の制定を示している。二つ目の日付である1789年はアメリカ合衆国憲法を指し示しており、ゆえに、それは憲法を、1798年に到来するはずの二重の権力として指し示したメッセージであった。ちょうど533年が538年に到来する二重の権力の告知であったのと同様であり、また、洗礼者ヨハネがキリストの洗礼の時に到来する二重の権力を告げ知らせたのと同様である。

キリストの二重の力を構成する二つの力は、神性が人性と結合しても罪を犯さないことを示した彼の模範であった。反キリストの二重の力を構成する二つの力は、諸教会の長としての彼の着座と、異端者を矯正する者としての彼の着座であった。地の獣の二重の力を構成する二つの力は、共和主義とプロテスタント主義という二本の角である。

「そして彼は小羊のような二本の角を持っていた。」小羊のような角は若さ、無垢、柔和を示し、1798年に預言者に「上ってくる」ものとして示された当時のアメリカ合衆国の性格をふさわしく表している。最初にアメリカへ逃れ、王権の抑圧と聖職者の不寛容からの避難所を求めたキリスト教徒の亡命者たちの中には、市民的自由と宗教的自由という広い基盤の上に政府を築くことを決意した者が多くいた。彼らの見解は独立宣言に反映され、そこでは「すべての人は平等に造られている」という大いなる真理と、「生命、自由、そして幸福の追求」という奪いがたい権利が掲げられている。また、憲法は国民に自治の権利を保障し、国民の投票で選ばれた代表者が法律を制定し、これを施行することを定めている。宗教的信仰の自由も認められ、各人が自らの良心の命ずるところに従って神を礼拝することが許された。共和主義とプロテスタント主義が国家の基本原則となった。これらの原則こそが、その力と繁栄の秘訣である。キリスト教世界の至る所で虐げられ踏みにじられてきた人々は、関心と希望を抱いてこの地に目を向けてきた。何百万もの人々がその岸辺を目指し、アメリカ合衆国は地上でもっとも強力な諸国の一つの地位へと上り詰めた。The Great Controversy, 441.

1776年、1789年、1798年は、「第八は七つに属している」ことを強調する三つの歴史を表している。1776年は独立宣言の公布と第一回および第二回大陸会議の歴史を表している。1789年は憲法の公布と連合規約の歴史を表している。1798年は外国人・治安諸法の公布と、聖書の預言における第六の王国としての地の獣の始まりを表している。

第一回大陸会議は1774年に開かれ、アメリカ合衆国初期の歴史において極めて重要な機関であり、アメリカ独立戦争の間に統治機関として機能した。大陸会議は、最初の会議と最後の会議という二つの予言的な時期に分けられる。第一回大陸会議には二人の議長がいて、1774年9月5日から10月26日までフィラデルフィアで開かれた。ペイトン・ランドルフが9月5日から10月22日まで最初の議長を務め、その後ヘンリー・ミドルトンが次の5日間、1774年10月26日まで議長を務めた。

第二回大陸会議は1775年から1781年まで開催された。第二回大陸会議には、その存続期間中に6人の議長がいた。ペイトン・ランドルフは1775年5月10日から同年5月24日まで議長を務めた。彼は第一回と第二回の大陸会議の双方で初代議長だった。第一回および第二回大陸会議を通じて、議長は合計で8人いた。

第二回大陸会議の第二代議長はジョン・ハンコックで、ハンコックは1775年5月24日から1777年10月31日まで議長を務めた。ヘンリー・ローレンズは1777年11月1日から1778年12月9日まで議長を務めた。ジョン・ジェイは1778年12月10日から1779年9月28日まで議長を務めた。サミュエル・ハンティントンは1779年9月28日から1781年7月9日まで議長を務めた。トーマス・マッキーンは1781年7月10日から1781年11月4日まで議長を務めた。

ペイトン・ランドルフは第一回大陸会議と第二回大陸会議の双方で初代議長を務めた。これにより、大陸会議の二つの時期には議長が8人いたことになるが、両時期の初代議長は同一人物だった。したがって、議長職は8期あったものの、実際の議長は7人しかいなかった。初代議長はその7人の一人であるが、ランドルフはその歴史の中で2度議長を務めたため、7人でありながら8期のうちの「第8」も彼が担ったことになる。

大陸会議の時期には、独立戦争の遂行は議会が担っていた。そのため、ジョージ・ワシントンはその期間に大統領となることはなかった。彼は軍の初代最高司令官に任命されていたからである。

両方の時期の最初の大統領であったランドルフは、実際の初代大統領であるジョージ・ワシントン象徴する二人の証人を表している。ワシントンはランドルフによって表されており、したがってワシントンの象徴としてのランドルフは、初代大統領としてのランドルフの予言的な特性を伝えると同時に、ランドルフが七人に属する八番目であったことも伝えている。ゆえにジョージ・ワシントンは、初代大統領であり初代の最高司令官であると同時に、予言的には八番目であり、七人に属する者でもあった。

イエスは物事の終わりをその始まりによって示す。したがって、最後の大統領兼最高司令官は八番目であり、すなわち七人のうちに属する者である。この予言的事実は、1776年という最初の道標と独立宣言の公表によって表される第一・第二回大陸会議の歴史によって裏づけられている。

1776年の道標は、2001年9月11日とパトリオット法を象徴しており、そこではアメリカの独立はイングランド法ではなくローマ法の権威の下に置かれた。それは、まもなく制定される日曜法において教皇権が再び地上の王座に就くための道を備える予言的期間の始まりを画するものである。

1776によって表される預言的な期間と同様に、その預言的な期間は、1781年の第二回大陸会議の閉会から1789年までの歴史を表しており、1789年は憲法の公布に関連する道標を特定する日付である。その歴史の中には大統領が八人いた。1781年から1789年までの歴史は連合規約の歴史である。連合規約は最初の憲法に当たるが、その弱点によりこれが置き換えられ、1789年に憲法が批准された。

その時期における八人の大統領は、第一・第二の大陸会議の歴史では大統領でなかった七人と、その最初の預言的な時期にも大統領であった一人から成っていた。ジョン・ハンコックは第二次大陸会議でも、また連合規約期にも大統領を務めた。預言的な観点では、第一・第二の大陸会議の期間に大統領であったのは七人だけであり、したがって預言的に見ると、ジョン・ハンコックは連合規約期の八人の一人であると同時に、前の時期の七人の一人でもあった。ゆえに彼は、七人に属しつつも第八であった。

1789年で表される第二の預言的な期間にも、1776年で表される第一の預言的な期間におけるペイトン・ランドルフと同様に、八番目であり、しかも七つのうちの一つである大統領（ハンコック）がいた。1789年は2021年1月6日のペロシの裁判と一致し、それを表している。

主は、シオンの城壁に忠実な見張り人を置き、彼らがためらうことなく大声で叫び、ラッパのように声を上げ、主の民にその背きとヤコブの家にその罪を告げ知らせるようにされた。主は、真理の敵が第四の戒めである安息日に対して断固たる攻撃を仕掛けるのをお許しになった。主はこのことによって、終わりの時代の試金石となるその問題に対する強い関心と呼び覚ますことを意図しておられる。これにより、第三天使のメッセージが力をもって宣べ伝えられる道が開かれる。

真理を信じる者は、今、沈黙してはならない。今、誰も油断してはならない。すべての者は、恵みの御座に嘆願をささげ、「あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、わたしがそれを行う」（ヨハネ14:13）という約束を拠り所として訴えるべきである。今は危険な時である。もし、自由を誇るこの地が、その憲法を形作るあらゆる原則を犠牲にし、宗教の自由を抑圧するための布告を出し、教皇制の虚偽と惑わしを強制しようとしているなら、そのときこそ、神の民は信仰をもって、いと高き方に嘆願をささげる必要がある。神に信頼する者には、神の約束のうちにあらゆる励ましがある。個人的な危険や苦悩に巻き込まれる見通しがあっても、落胆する必要はない。むしろ、それは神の民の力と希望を奮い立たせるべきである。なぜなら、彼らの危機の時こそ、神がご自身の力をいっそう明らかに示してくださる時だからである。

私たちは、抑圧や患難を安穩と待ち受け、手をこまねいて、その悪を防ぐために何もせずにいるべきではない。私たちの一致した叫びを天に届けよう。祈り、働け、働き、祈れ。だが、だれひとり、軽率に行動してはならない。あなたがたは心において柔和でへりくだっていなければならないことを、かつてないほどに学びなさい。個人であれ教会であれ、だれに対してものしって非難してはならない。キリストがそうされたように、人の心に接することを学びなさい。時には鋭いことばを語らなければならないこともある。しかし、明確な真理を語る前に、神の聖霊があなたの心にとどまっていることを確かめなさい。そのときには、真理が自ずと道を切り開いていくままに任せなさい。切り込むのはあなたではない。『選ばれたメッセージ』第2巻、370。

憲法によって表される準備の予言的期間における第二の道標は、次の道標において憲法が覆されることを示している。その第二の道標は、バプテスマのヨハネとユスティニアヌスの勅令によって類型化されており、いずれも、その期間に表される最後の出来事の到来に関して、その到来を指し示し、警告を与えた。ヨハネにおいてはそれは、キリストが尊い血によっていのちの契約を確証されたときの、キリストへの権能付与であり、ユスティニアヌスにおいては、殉教者たちの血によって死の契約を確証しようとしていた反キリストへの権能付与であった。

1789年の憲法は、地の獣の二本の角に力が与えられることを指し示し、そしてそのことによって、1798年の外国人・治安諸法に表される、地の獣の二本の角の権力の間もなく訪れる破壊をも指し示した。2020年に二人の証人が路上で殺害されたとき、彼らは、2021年1月6日のペロシの裁判に象徴される、憲法への持続的な攻撃を指摘し、警告した。

2021年1月6日は、533年のユスティニアヌス帝の勅令に象徴されているように、間もなく来る日曜法における教皇権の強化に関する警告である。2021年1月6日と533年の双方は、538年のオルレアン公会議における日曜法および1798年の外国人・治安法に象徴されているように、間もなく来る日曜法の到来を警告している。後者は、間もなく来る日曜法において地の獣が竜のように語ることを象徴していた。

日曜法において、教皇権の致命的な傷は癒やされ、黙示録第17章の「七つに属する第八の頭」がよみがえる。1798年の外国人・治安諸法は、地の獣が竜のように語ることを表している。すなわち、それは太陽崇拝を強制するだけでなく、その後、七つの頭にして第八の頭としての黙示録第13章の海の獣の権威を、全世界に受け入れさせるのである。ゆえに、準備の期間の中で1776年、1789年、1798年によって示される三つの時期それぞれにおいて、「七つに属しつつ第八である」という予言的な謎が予言的に表されている。

謎を特定する最初の二つの道標（1776年と1789年）は、地の獣の予言的歴史の中で成就しつつあるその謎を扱っており、三つ目の道標は、教皇権において成就しつつある謎を特定している。

次の記事でこの研究を続けます。

「地に住む者たちに、獣の像を造るようにと言っている。」ここには、立法権が人民の手にある政治形態が明確に示されており、予言で指し示されている国がアメリカ合衆国であることを示す、きわめて有力な証拠である。

しかし、「獣への像」とは何か。それはどのように形づくられるのか。像は二本の角を持つ獣によって作られ、獣への像である。また「獣の像」とも呼ばれる。したがって、その像がどのようなものか、またそれがどのように形づくられるのかを知るためには、獣そのもの-すなわち教皇制-の特性を研究しなければならない。

初期の教会は、福音の簡素さから逸れて異教の儀式や慣習を受け入れたことで墮落し、神の御霊と御力を失った。そして人々の良心を支配するために、世俗権力の支持を求めた。その結果生まれたのが教皇制度であり、国家権力を掌握してそれを自らの目的の推進、ことに「異端」を罰するために用いる教会となった。アメリカ合衆国が獣の像を造るためには、宗教的権力が世俗政府をこのように支配し、国家の権威が教会

によって自らの目的を達成するためにも用いられるようにしなければならない。

教会は世俗権力を手にするたびに、その教義に異を唱える者を罰するためにそれを用いてきた。ローマにならって世俗権力と同盟を結んだプロテスタント諸教会も、良心の自由を制限しようとする同様の意図を示してきた。その一例が、イングランド国教会による非国教徒に対する長期にわたる迫害である。16世紀と17世紀には、何千人もの非国教徒の牧師が自らの教会から逃れることを余儀なくされ、牧師も信徒も多くが、罰金、投獄、拷問、さらには殉教にまで処せられた。

初代教会が国家権力の援助を求めるに至ったのは、背教のゆえであった。そしてこれが、教皇権（すなわち「獣」）の発展への道を準備した。パウロは言った。「背教が起こり…そして罪の人が現れる。」テサロニケ人への第二の手紙 2章3節。こうして、教会における背教は、獣の像への道を備えることになる。

聖書は、主の来臨に先立って、最初の数世紀に見られたものと同様の宗教的退廃の状態が存在することを宣言している。「終わりの日には危険な時が来る。なぜなら、人々は自分を愛する者、金銭を愛する者、自慢する者、高慢な者、冒瀆する者、親に不従順な者、感謝しない者、不敬虔な者、自然の愛情がない者、和解しない者、中傷者、自制できない者、残忍な者、善をなす者を侮る者、裏切り者、軽率な者、思い上がった者、神を愛するよりも快樂を愛する者となり、敬虔の形は持ちながら、その力を否定する者となるからである。」テモテへの第二の手紙 3:1-5。「さて、御霊は明白に言われる。後の時代には、ある者たちは信仰から離れ、惑わす霊と悪霊の教えに心を留めるようになる。」テモテへの第一の手紙 4:1。サタンは「あらゆる力とするしと偽りの不思議、そして不義のあらゆる欺き」をもって働く。そして「救われるために真理への愛を受け入れなかった」者はみな、「強い惑わし」を受け入れるままにされ、「偽りを信じる」ようにされる。テサロニケ人への第二の手紙 2:9-11。このような不敬虔の状態に達するとき、最初の数世紀の場合と同じ結果が生じるであろう。The Great Controversy, 443, 444.